

未来ノート

-202Xの君へ-

バドミントン

のぞみ

奥原希望

父も驚いた本気

目標は常に書く

格上に負けない

絶対女王への道

高2で全日本史上最年少V

奥原希望(22)は小さいころから格上の相手と戦うことで、実力を伸ばしてきた。

最初の相手は、父の圭永さん(59)がバドミントン部の顧問を務めていた長野・大町北高の生徒たち。奥原は小学4年ながら全国高校総体にも出場する選手たちにまじり、同じ練習をこなした。

「とにかく負けず嫌い。」

1度負けても、同じ相手には2度負けたくないという気持ちが強かった」と同高で指導した藤巻克さん(60)。平日の3時間のうち、2時間は試合形式の練習。奥原は背の高い相手のスマッシュを受けの中で、レシーブ力を磨いた。

圭永さんはビデオカメラを2台購入。大会では奥原の試合と、次に当たる対戦相手の試合を撮影し、一緒に

映像を見ながらどうやったら勝てるかを常に考えさせた。小学6年になると、男子中学生、女子高校生に勝つようになった。

「自分より強い相手がいっぱいいる。だから、同年代でどんなに勝っても満足することはなかった」と奥原は振り返る。

中学卒業後は埼玉・大宮東高へ。「天井」を作らない圭永さんの指導方針は、同高の大高史夫さん(66)にも通じるものだった。大高さんは自宅の2階をリフト

ームし、奥原のために6畳の部屋を用意。「世界で戦える選手に育てたい」と奥原を連れて中国やマレーシアなどに遠征し、NTT東日本や日本ユニシスといった社会人の強豪チームの練習に参加させた。

最初はほとんど相手にしてもらえなかったが、次第に日本代表クラスとも試合をするようになった。奥原は「私の中で、負けて仕方ない試合なんて一つもない。どんな相手でも、どうやったら勝てるかを考えてきた」という。

高校2年で社会人選手を次々に破り、全日本総合選手権史上最年少優勝。30年近く指導し、多くのトップ選手を育てた大高さんも「さすがにびっくりした」という快挙だった。(照屋健)



①全日本総合を史上最年少で制した奥原=2011年12月②大宮東高の恩師大高史夫さん。現在は定年退職し、後援会の事務局長として奥原を支える

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。